

動物園だより

(題字 京都市長 門川大作)

No.152

平成22年4月1日発行

できごと

ヤブイヌの赤ちゃんが
生まれました～



★2月9日未明にヤブイヌのコモモが3頭の赤ちゃんを生みました。いつも一緒に行動する父親のケンタは、出産時にもコモモに付き添い、生まれてきた赤ちゃんの体をなめたり、くわえて運んだりと子育てに協力的です。残念なことに、生まれたときから少し元気がなかった1頭が、6日目に亡くなりましたが、他の2頭はお母さんのお乳を飲んですくすくと育っています。2頭の成長を温かく見守ってくださいね！

【生後25日目】

赤ちゃん誕生!!



【出産2日前の
あっぱいです!!】



新しい仲間

★天王寺動物園から、フンボルトペンギンのメス1頭(2007年ふ化)が新しく仲間入りしました。名前は『ナンテン』と名付けられました。



★井の頭自然文化園からニホンリス5頭(小獣舎)とテンジクネズミ10頭(おとぎの国)が仲間入りしました。

共汗でつくる新「京都市動物園構想」 いよいよスタート!!

★『新あとぎの国』建設のために、1955年に建てられた南猛獣舎が撤去されました。



【撤去前の南猛獣舎】

*ヒグマを最後に今までこの獣舎では…
トラ・ライオン・ヒョウ・クロヒョウ・ピューマ・ユキヒョウ・シロテテナガザル・シシオザル…を飼育してきました。



【撤去後の更地】

*そしてここには…



【新あとぎの国】

安らかに



★昨年12月26日、チンパンジーのヨウコ(メス20歳)が腹膜炎により死亡しました。昨年3月にチンパンジー・サンクチュアリ・宇土から来園し、その個性的な性格は多くの方々に愛されてきただけにとても残念です…

寄付のお知らせ



ありがとうございました

国際ソング京都IIクラブ様から木製ベンチを寄贈していただきました。

東門出入口開設!! 地下鉄蹴上駅から「徒歩5分」!!



ブラジルバク



リオの誕生!!

ブラジルバク一家



【カリオス】

- ・オス
- ・2002年6月30日
伊豆シャボテン公園生まれ
- ・2007年3月19日来園
ちょっぴり神経質。ニンジンが苦手
でよく残している。



【ミノリ】

- ・メス
- ・2004年10月23日
よこはま動物園生まれ
- ・2007年11月22日来園
人なつこく、おっとりさん。木の
枝も残さず食べる食いしん坊。



【リオ】

- ・オス
- ・2009年10月1日
京都市動物園生まれ
食いしん坊。よく口の周りを舌を出
してペロリと舐めている。
スイッチが入ったかのようにいきなり
走り回る事も。

リオが生まれるまで...

ミノリには約1ヵ月に一度、定期的な発情がありました。2008年8月末の交尾以降、発情が見られなくなりました。ミノリの妊娠を確かめるため、体重や腹囲をはかり、採血をしてホルモン値を調べました(写真1)。エコー検査では、胎児の心臓を確認することができました(写真2)。妊娠の初めのころは小さかった乳房(写真3)も、お腹の赤ちゃんが育ってくると大きく張ってきました(写真4)。



『出産約1ヵ月前...
お腹の膨らんだミノリ』



写真1



写真2



写真3



写真4

『2009年5月25日撮影』

『2009年9月11日撮影』

リオ誕生!!

2009年10月1日の午後7時1分に、リオが誕生。
妊娠期間は401日で、体重は8.1kgでした。
出産の様子は室内に設置していた監視カメラ(写真5)で
確認しました。横たわり、そのままの姿勢で出産しました。
激しい陣痛は無かった様子で、安産だったようです。



写真5



『生まれた次の日』

授乳と模様

授乳はほとんどが横になって行います(写真6)。



写真6

こどもの頃は白い斑点とストライプのうり坊模様です(写真7)。木漏れ日などに紛れてカモフラージュになるといわれています。



写真7



『足の先まで模様が!』

～命名式～

2009年11月8日命名式が行われました(写真8)。
 リオの名前は来園者の方に5つの候補(イノル・アルディ・ラミー・リオ・ネイロ)から選んで投票してもらいました。
 投票総数はなんと3624票!! 『リオ』はその中で一番投票が多く、1253票でした。
 ちなみに、リオという名は2016年五輪開催地がリオデジャネイロに決まった日が、誕生日に近いことに由来しています。



写真8

あくあく

リオは母乳の他に生まれて数日でバナナなども食べ始めました。食欲も旺盛で今では木の枝もおしゃおしゃ食べています(写真9)。

体の模様も、焦げ茶から明るい茶に変わり、そして背中や四肢の先などから白い斑点が消えかけています(写真10)。

模様はあとなに近づいてきていますが、まだまだ鼻は短く、あどけない表情で、おしりも丸く子供らしい姿です。



写真9



写真10

担当より

今回、リオの誕生で印象に残っているのは、当初リオがミノリに置られながらもあっぱいを飲んでいた光景です。出産直後は特に激しく、ミノリがリオを置ったり、くわえて飛ばすなど荒い扱いをしていました。しかしリオは、たくましく立ち上がりミノリのあっぱいへ向かって歩いて行き、その姿に小さいながらも力強さを感じました。

その後、お互い授乳や飲み方に慣れて順調にリオは成長し、8.1kgだった体重が約4ヵ月後(2010年2月15日)には66.2kgまで大きくなりました。

これからもずっと、みなさんから愛される立派なバクになって欲しいと願っています。



飼育担当 荻崎

ZOOスポット 68

今回は、動物園の北西角にある野生鳥獣救護センターで傷ついた動物たちの飼育をしている、木下翠さんと江幡紗代さんにスポットをあててみました。



『木下翠さん』

仕事を始めるまでは、鳥を触る機会もほとんどなく、ましてや野鳥の種類なんてほとんど知りませんでした。こんな私が救護センターで仕事をしていけるのが、始めは不安もありました。まだまだ至らない私ですが、た

くさんの方々に支えられ、早くも3年が経ちました。

救護センターに来る動物は、全く人に慣れていません。そのため世話をするだけでもストレスを受けてしまいます。中には餌を食べてくれない動物もいて、強制で餌を食わせても弱らせて死なせてしまったことも。その動物のことを分からなかったばかりに、悔しい思いをすることもありました。

それでも狭いケージや箱の中で元気になり、野生に帰っていく力強い動物たちを見ると、頑張っただけで元気になってくれたことをとても嬉しく思います。

救護センターが、野生動物のことを知っていただけるきっかけになれるように、頑張りたいと思います。



『江幡紗代さん』

私が、動物と関わる仕事に就きたいと思ったのは、動物園の小学生サマースクールで飼育体験をしたのがきっかけでした。その後動物関係の専門学校へ行き、救護センターの存在を知り、傷病鳥獣保護の仕事に興味を持ちました。縁あってこの仕事に付くことができました。

救護センターに持ち込まれる動物の9割は鳥で、小さい頃から鳥が好きで私にとっては鳥の世話が出来るのは嬉しいことですが、センターに来る動物は、傷ついて瀕死の状態の場合が多く、6割は死んでしまいます。大好きな動物たちが死んでいくのはやはり辛く、最初は悲しくて仕方がなかったのです。

けれど、頑張っただけで動物たちが段々元気になり、また野生へ帰って行くのを見るととても嬉しい気持ちになり、この仕事をやって良かったと思います。

これからも、救護センターの活動を通じて、野生動物保護を多くの人に伝えて行きたいと思います。

飼育員のひと工夫！

飼育員が、動物たちや見に来ていただいているお客さんのために、いろんな工夫をしているのでぜひご紹介します！

其のワ

今回はヤブイヌ舎の紹介です。



ヤブイヌと言えば
やっぱり藪ですね～



U字溝をつなげて
作った
トンネルです～
中をくぐったり
上を走ったり♪



つるを
びら下げたら
引っ張ったり
かじったり～



土を入れトンネルになるようU字溝を
埋めました!!
掘った穴を埋めるとまた掘ってるよ!



コモモが
掘って出て
きたU字溝!



天気の良い日は
日向ぼっこ♪
親子で
日向ぼっこも
見れるかな?